



Nexus ダッシュボードのアップグレード

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [Nexus ダッシュボードのアップグレード \(5 ページ\)](#)

前提条件とガイドライン

既存のNexusダッシュボードクラスタをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- アップグレードに影響する可能性のある動作、ガイドライン、および問題の変更については、ターゲットリリースの[リリースノート](#)を必ずお読みください。

アップグレードプロセスは、すべての Nexus ダッシュボード フォーム ファクタで同じです。ただし、既存のクラスタが物理サーバー、VMware ESX、Linux KVM、Azure、または AWS を使用して展開されている場合は、ターゲットリリースの ISO イメージ (nd-dk9.<version> .iso) アップグレードします。既存のクラスタが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、RHEL 固有のイメージ (nd-rhel- .tar) 。

- 既存のクラスタで実行するサービスの[リリースノート](#)および[アップグレードガイド](#)を確認し、アップグレードに影響する可能性がある動作、注意事項、問題でサービス固有の変更について対象のリリースで実行を計画するようにしてください。

サービス固有のドキュメントは、次のリンクで見つけることができます。

- [Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、リリースノート](#)
 - [Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、アップグレードガイド](#)
 - [Nexus Dashboard Insights リリースノート](#)
 - [Nexus Dashboard Insights アップグレードガイド](#)
 - [Nexus Dashboard Orchestrator リリースノート](#)
 - [Nexus Dashboard Orchestrator アップグレードガイド](#)
- 物理的な Nexus Dashboard クラスタをアップグレードしている場合は、ノードにターゲットの Nexus Dashboard リリースでサポートされている最小の CIMC バージョンがあることを確認してください。

サポートされている CIMC バージョンは、ターゲット リリースの [Nexus Dashboard リリースノート](#) にリストされています。

CIMC アップグレードについては、[Nexus Dashboard ユーザーガイド](#) の「トラブルシューティング」セクションで詳しく説明されています。

- アップグレードを続行する前に、データを保護し、潜在的なリスクを最小限に抑えるために、アップグレードの前に Nexus ダッシュボードとサービスの構成バックアップを実行する必要があります。
- 2.3(x) リリースにアップグレードするために必要な Nexus Dashboard の最小リリースは、クラスタにデプロイした特定のサービスによって異なります。

詳細については、上記にリンクされているサービス固有のリリースノートとアップグレードガイドを確認してください。

- リリース 2.3(x) にアップグレードする前に、クラスタで実行されているすべてのサービスを無効にする必要があります。
 - Nexus Dashboard を同じリリース内の 1 つのパッチから別のパッチにアップグレードする場合 (たとえば、2.3.2b から 2.3.2d に)、Nexus Dashboard のアップグレードが完了したら、サービスを再度有効にします。
 - Nexus Dashboard をあるリリースから別のリリース (たとえば、2.3.1 から 2.3.2) にアップグレードする場合、既存のサービスはターゲットの Nexus Dashboard リリースと互換性がない可能性があります。プラットフォームのアップグレードが完了しました。
- Nexus ダッシュボードとサービスの相互運用性サポートの完全なリストについては、「[Nexus ダッシュボードとサービスの互換性マトリクス](#)」またはこのセクションで前に示したサービス特有のアップグレードガイドを参照してください。

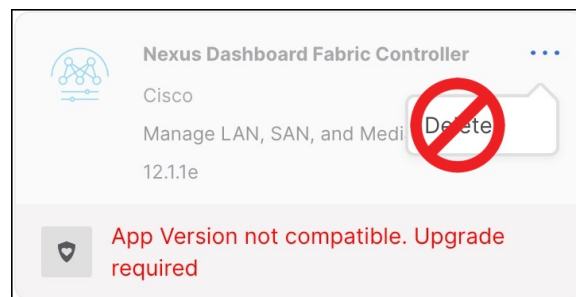


(注)

- Nexus Dashboard ファブリック コントローラの場合、クラスターがアップグレードされた後で、サービスも同様にアップグレードするまでサービスを無効にしたままにする必要があります。

Nexus Dashboard クラスターがアップグレードされた後で、既存のバージョンのサービスが互換性のないアプリ バージョンとともにリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告です。

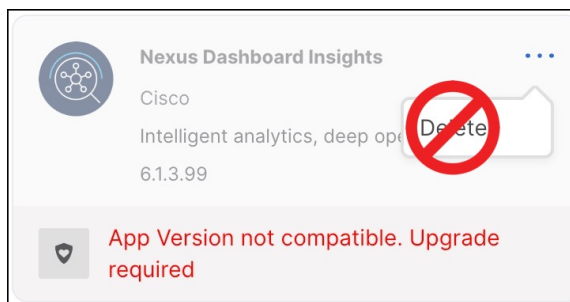
ファブリック コントローラ アップグレードイメージをアップロードする前にこのバージョンを削除または再度有効にする必要があります。新しいバージョンをアップロードしたら、古いリリースを削除する前に、それを有効にしてサービスのアップグレードを完了する必要があります。新しいリリースがアクティブ化される前に古いサービスバージョンを削除すると、アップグレードが失敗する可能性があります。



- Nexus Dashboard Insights の場合、クラスターがアップグレードされた後で、サービスも同様にアップグレードするまでサービスを無効にしたままにする必要があります。

Nexus Dashboard クラスターがアップグレードされた後で、既存のバージョンのサービスが互換性のないアプリ バージョンとともにリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告です。

Insights のアップグレードイメージをアップロードする前にこのバージョンを削除または再度有効にする必要があります。新しいバージョンをアップロードしたら、古いリリースを削除する前に、それを有効にしてサービスのアップグレードを完了する必要があります。新しいリリースがアクティブ化される前に古いサービスバージョンを削除すると、アップグレードが失敗する可能性があります。



- Nexus Dashboard Orchestrator の場合、新しいバージョンをアップロードしてアクティブ化する前に、既存のバージョンを再度有効にする必要があります。

• 有効な DNS および NTP サーバーが構成され、すべてのクラスター ノードから到達可能である必要があります。

• 現在の Nexus ダッシュボード クラスタが正常であることを確認します。

Nexus ダッシュボードの管理コンソール (Admin Console) の [概要 (Overview)] ページでシステムのステータスを確認するか、`rescue-user` としてノードの1つにログインし、`acs health` コマンドを実行して `All components are healthy` が返ってくることを確認します。

• アップグレードが進行中にワーカーまたはスタンバイ ノードを追加するなど、設定変更がクラスタに対して行われていないことを確認します。

• Nexus Dashboard ではプラットフォームのダウングレードはサポートされていません。

以前のリリースにダウングレードするには、新しいクラスタを展開してサービスを再インストールする必要があります。

Nexus ダッシュボードのアップグレード

ここでは、既存の Nexus ダッシュボード クラスタをアップグレードする方法について説明します。

始める前に

- で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。 [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)

ステップ 1 Nexus ダッシュボード イメージをダウンロードします。

a) [ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] ページを参照します。

<https://software.cisco.com/download/home/286327743/type/286328258>

- b) ダウンロードするNexusダッシュボードのバージョンを選択します。
- c) ターゲットとするリリース用の Cisco Nexus ダッシュボード イメージをダウンロードします。
- (注)
- Nexus ダッシュボードが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、.tar イメージ (nd-rhel-`<version>` .tar) を使用してアップグレードを実行します。
RHEL の展開の詳細については、[既存の Red Hat Enterprise Linux インストールでの展開](#)を参照してください。
 - 他のすべてのフォーム ファクターについては、.iso イメージ (nd-dk9.<version>.iso) を使用してアップグレードを実行します。
たとえば、最初の展開で仮想フォーム ファクターを使用していた場合 (VMware ESX での展開のための .ova イメージなど)、またはクラウドプロバイダーのマーケットプレイスを使用していた場合であっても、アップグレードでは .iso イメージを使用する必要があります。
- d) (オプション) 環境内のWebサーバでイメージをホストします。
イメージをNexusダッシュボードクラスタにアップロードする場合、イメージに直接URLを指定するオプションがあります。

ステップ 2 現在の Nexus Dashboard GUI に管理者ユーザーとしてログインして、**管理コンソール**に移動します。

ステップ 3 クラスタにインストールされている既存のサービスを無効にします。

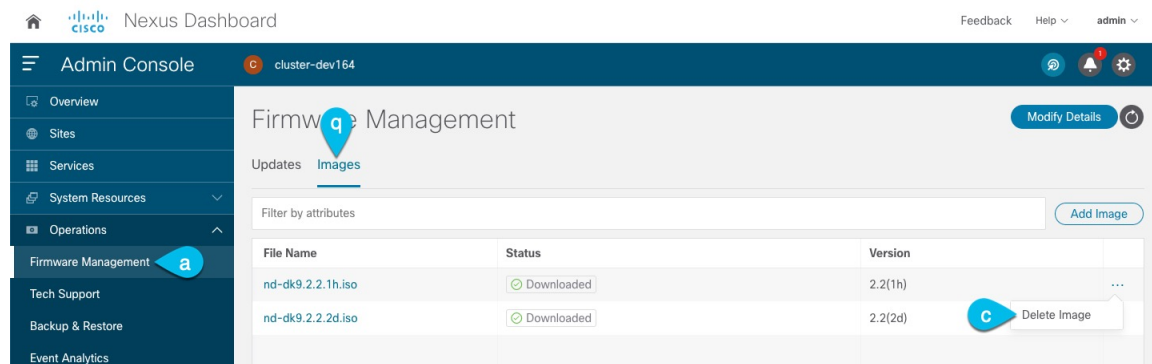
(注) クラスタのアップグレードをする前にすべてのサービスを無効化する必要があります。

- a) メインナビゲーションメニューから **[サービス (Services)]** を選択します。
- b) サービスのタイルで、**[アクション] (...)** メニューをクリックし、**[無効化]** を選択します。
- c) クラスタに展開されている他のすべてのサービスについて、この手順を繰り返します。

ステップ 4 クラスタから既存のアップグレードイメージを削除します。

クラスタを初めてアップグレードする場合は、この手順をスキップできます。

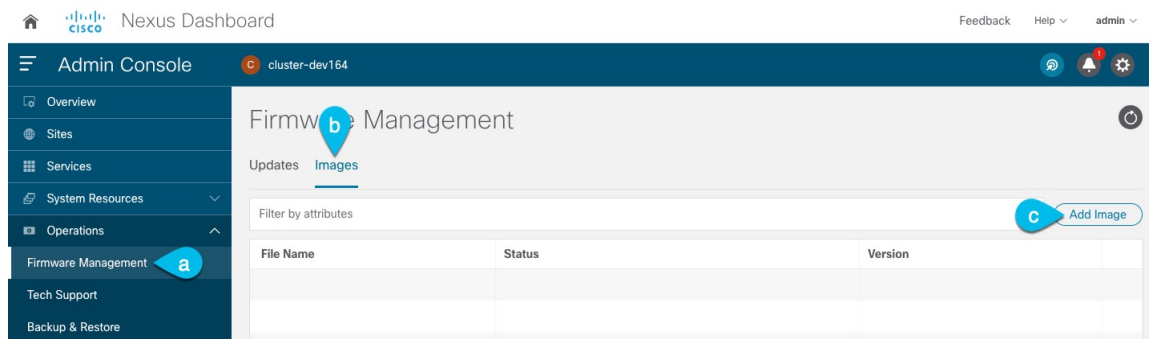
以前にクラスタを現在のバージョンにアップグレードしたことがある場合は、以前のアップグレードで使用されたアップグレードイメージを削除する必要があります



- a) **[Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)]** に移動します。

- b) [イメージ] タブを選択します。
- c) 既存のアップグレードイメージの横にあるアクションメニュー (...) から、[イメージの削除 (Delete Image)] を選択します。
- d) すべての既存のアップグレードイメージについて、この手順を繰り返します。

ステップ 5 新しいイメージをクラスタにアップロードします。



- a) [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。
- b) [イメージ] タブを選択します。
- c) [Add Image] をクリックします。

ステップ 6 新しいイメージを選択します。

- a) [ファームウェア イメージの追加 (Add Firmware Image)] ウィンドウで、[ローカル (Local)] を選択します。

または、ウェブサーバでイメージをホストした場合は、代わりに [リモート (Remote)] を選択します。

- b) [ファイルの選択 (Select file)] をクリックし、最初の手順でダウンロードした .iso または .tar イメージを選択します。

RHEL での展開の場合、.tar ファイルを使用してアップグレードします。他のすべての展開ファクターの場合、.iso ファイルを使用します。

リモートイメージのアップロードを選択した場合は、リモートサーバ上のイメージのファイルパスを指定します。

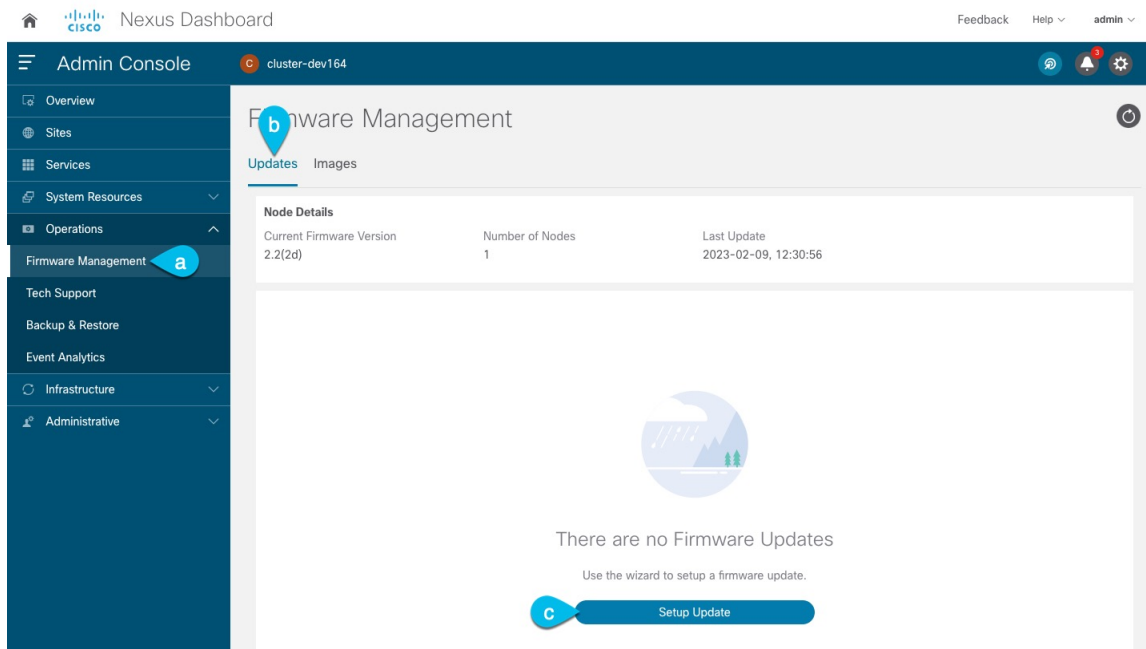
- c) [アップロード (Upload)] をクリックして、イメージを追加します。

イメージが Nexus ダッシュボードクラスタにアップロードされ、解凍されて処理され、アップグレードに使用できるようになります。プロセス全体に数分かかる場合があり、[イメージ (Images)] タブでプロセスのステータスを確認できます。

ステップ 7 イメージステータスが「ダウンロード済み」に変わるのを待ちます。

イメージでイメージのダウンロードの進行状況を確認できます。

ステップ 8 更新を設定します。



- a) [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。
- b) [更新] タブを選択します。
- c) [更新の設定 (Set Up Update)] をクリックします。

(注) 以前にクラスタをアップグレードしたことがある場合、ページには代わりに以前のアップグレードの詳細が表示されます。その場合は、ページの右上にある [詳細の変更 (Modify Details)] ボタンをクリックして、新しいアップグレード情報を提供します。

[ファームウェアの更新 (Update Firmware)] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 9 アップグレードを開始します。

- a) [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [バージョン選択 (Version selection)] 画面で、アップロードしたファームウェアバージョンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- b) [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [確認 (Confirmation)] 画面で、詳細を確認し、[検証 (Validate)] をクリックします。

セットアップは、アップグレードを確実に成功させるために、いくつかの準備段階と検証段階を経ます。終了するまでに数分かかる場合があります。

- c) 検証が完了したら、[インストール (Install)] をクリックします。

インストールの進行状況ウィンドウが表示されます。更新中は、この画面から移動できます。後で更新ステータスを確認するには、[ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に移動し、[最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。

これにより、必要な Kubernetes イメージとサービスが設定されますが、クラスタは新しいバージョンに切り替わりません。次の手順で新しいイメージをアクティブ化するまで、クラスタは既存のバージョンを実行し続けます。このステップは、最大で 20 分程度かかる場合があります。

ステップ 10 新しい画像をアクティブにします。

アップグレード画面から移動したことがない場合は、**[アクティブ化 (Activate)]** をクリックして新しいイメージをアクティブ化します。

そうでない場合は、次のようになります。

- a) **[オペレーション (Operations)]** > **[ファームウェア管理 (Firmware Management)]** 画面に戻ります。
- b) **[最終更新ステータス (Last Update Status)]** タイルで、**[続行 (Continue)]** をクリックします。
一部の以前の Nexus ダッシュボードバージョンでは、このリンクは代わりに **[詳細の表示 (View Details)]** と呼ばれる場合があります。
- c) **[ファームウェア アップデート (Firmware Update)]** の > **[インストール (Install)]** 画面で、**[アクティブ化 (Activate)]** をクリックします。

すべてのクラスタサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、さらに最大 20 分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了すると、自動的に再ロードされます。

ステップ 11 クラスタに展開されている個々のサービスをアップグレードします。

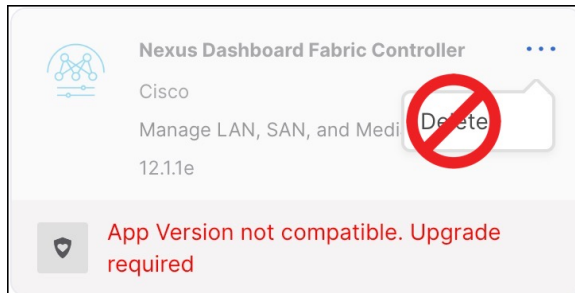
アップグレードするサービスに固有のアップグレードガイドを必ず読んでください。

- [Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、アップグレードガイド](#)
- [Nexus Dashboard Insights アップグレードガイド](#)
- [Nexus Dashboard Orchestrator アップグレードガイド](#)

(注) サービスをアップグレードする場合：

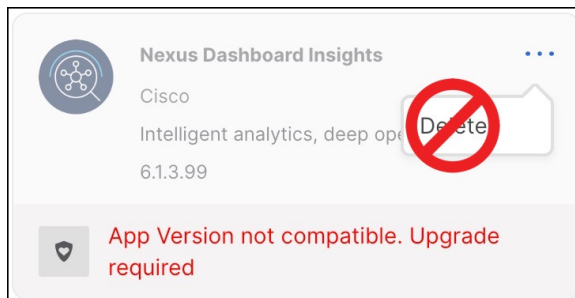
- Nexus Dashboard ファブリック コントローラの場合、クラスタのアップグレード後も、サービスをアップグレードするまで、サービスを無効にしておく必要があります。

Nexus Dashboard クラスタがアップグレードされた後、サービスの既存のバージョンが、互換性のないアプリ バージョンと共にリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告。ファブリック コントローラのアップグレードイメージをアップロードする前に、このバージョンを削除または再度有効にしないでください。



- Nexus Dashboard Insights の場合、クラスタのアップグレード後も、サービスをアップグレードするまで、サービスを無効にしておく必要があります。

Nexus Dashboard クラスタがアップグレードされた後、サービスの既存のバージョンが、互換性のないアプリ バージョンと共にリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告。Insights アップグレードイメージをアップロードする前に、このバージョンを削除または再度有効にしないでください。



- Nexus Dashboard Orchestrator の場合、新しいバージョンをアップロードしてアクティブ化する前に、サービスの既存のバージョンを再度有効にする必要があります。

ステップ 12 (オプション) 新しい UCS-C225-M6 ハードウェアに移行します。

(注) Nexus ダッシュボードノードを新しい UCS-C225-M6 サーバーに置き換える予定がない場合は、この手順をスキップできます。

新しいハードウェアへの移行を計画している場合は、前の手順で説明したように、最初に既存のクラスタをリリース 2.3(1) 以降にアップグレードする必要があります。

UCS-C220-M5 ハードウェアを使用して展開された既存の Nexus ダッシュボード クラスタを移行するには、新しい UCS-C225-M6 ノードを `stadb` ノードとして既存のクラスタに追加し、古いノードの 1 つをフェイルオーバーするだけです。

次に、古いクラスタの残りのノードについて、一度に 1 ノードずつプロセスを繰り返します。`stadb` ノードの追加と使用については、[Nexus Dashboard ユーザーガイド](#)の「インフラストラクチャ管理」の章で詳しく説明されています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。